

特集

皆既日食を見に行こう！

～私の日食体験記（A型の場合）～

吉住千亜紀（和歌山大学）

1. はじめに

2009年7月22日、日本国内で皆既日食！この日のためにいろいろ準備をされている方も多いと思います。そこで、少しでも参考になればと、筆者の日食体験をご紹介します。

2. 皆既日食までの道のり

私には、見たいものが3つありました。オーロラ、大流星群、そして皆既日食です。2001年までに前2つの夢を幸運にも叶えることができた私は、もう日食を見るしかないと思い立ちました。

2.1 金環日食（テナアン島）

2002年6月11日、東アジア～太平洋にかけて金環日食が起きました。日本でも部分日食が見られましたが、当時プラネタリウムに勤務していた私は、自分の目で見たもの・自分で体験したことをお客様に伝えたいと、テナアン島へ金環日食を見に行くことになりました。テナアン島はサイパンから船で約1時間。青い空、青い海、白い砂浜が広がる素敵な島です。



図1 テナアン島のホテルの庭

↑のあたりで日食観測

今回がはじめての日食観測ということで、安心の日食ツアーに参加しました。ツアーは観測地や食事の心配もなく、日食講座やベテラン日食ハンターの方との交流もあり、とても参考になりました。これからの方にはおすすめです。

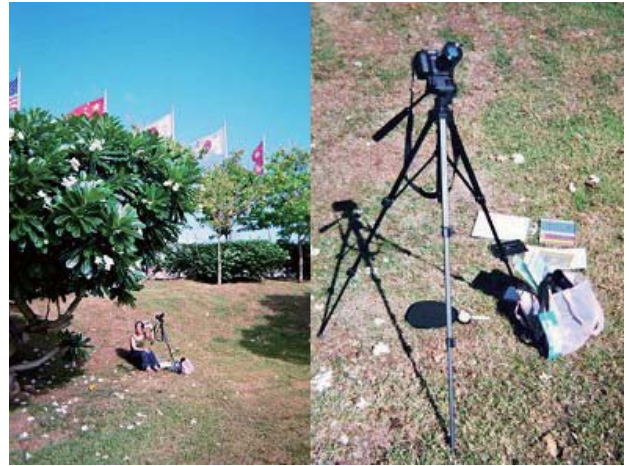


図2 観測風景と観測機材

（オリンパスCAMEDIA、ASTRO SOLAR 太陽観測フィルター、黒いうちわ、日食グラス、テレホンカード、スケッチブック、色鉛筆等）

当日、ぎりぎりまで寝ていたかったこともあり、ツアーの観測地ではなく、ホテルの庭で観測することにしました。デジタルカメラで木漏れ日撮影（図3）、太陽撮影（図4）とスケッチ（図5）に挑戦です。また、この庭には木はたくさんありますが、きれいに木漏れ日が見えそうな場所はそう多くはありません。事前に庭を走り回って白い壁を見つけておきました。

日食が始まると、欠けていく太陽を日食グラスで確認しながら、太陽の写真を撮ったり、

壁まで走ったり、スケッチしたりしながら金環日食になるのを待ちました。途中、通りかかったホテルの職員さんに日食グラスで太陽を見てもらおうと、大変驚いていたのが印象的でした。その日、ホテルが日本人であふれかえっている理由がやっとわかったようでした。



図3 木漏れ日を撮影する筆者

やがてふとあたりが暗くなったような気がして「あっ、まずい、雲った？」と空を見上げると、しかしまぶしい太陽が輝いています。金環直前だったようです。金環になった瞬間、ホテルの屋上から「ウォー」という歓声が聞こえてきました。私はがんばってカメラのシャッターを押していましたが、結果は図4の通りです。



図4 太すぎるリング・・・失敗

30秒ほどの金環日食はあっという間に終わり、太陽がもとに戻る間は、なんとなくしあわせな気持ちでのんびりスケッチをしあげました。

教訓①その場でマニュアルを見なくてもよい

ように機材の使い方を熟知しておく。
 教訓②一度に欲張って挑戦せず、得意な方法で記録をとる。(筆者の場合はスケッチが一番記憶に残るようでした。)
 教訓③日食ツアーは憧れのインストラクターさんがいるツアーで！（楽しさ倍増！）

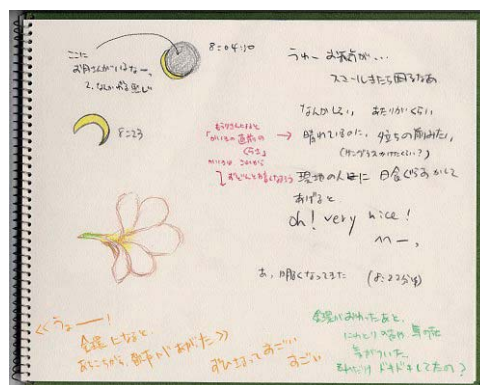


図5 スケッチ帳より

2.2 ハイブリッド日食（パナマ）

2005年4月9日（日本時間）、南太平洋～中南米にかけて、一つの日食帯の中で皆既と金環両方が見られるハイブリッド日食が起きました。前回の日食の余韻も薄れ、そろそろ次のステップへと思っていた私は、日食中継団体 LIVE! UNIVERSE[1]の中継隊にくっついて、パナマへ行くことにしました。パナマでは金環日食ですが、前回よりは細い太陽が見えるはずで、皆既日食に一步近づけます。実はパナマと聞いたとき、「初の赤道越え！」の期待もあったのですが、まだ北半球（北緯8°付近）でした。



図6 パナマといえばパナマ運河

観測地は地方都市ペノノメ。日食中継はインターネットカフェから実施することになり、私もブログ（図7）[2]で中継を行いました。



図7 ブログ

観測グループはカフェの外と少し離れた道路脇で観測を行いました。きつい陽射しが降り注ぎ、たくさんの人と車が行きかっています。日食グラスで欠けていく太陽を確認しながら時々ブログを更新しつつ、道路脇の撮影隊に差し入れしたり、怪しく思われないうちに通行人に日食グラスで太陽を見てもらったりと、前回よりもゆったりと金環日食になるのを待てました。

しかし金環を目前にして薄い雲が空を覆いはじめ、あと5分、あと2分、集まるギャラリーにも雲が晴れるように祈ってほしいとスペイン語に通訳して伝えてもらい・・・



図8 金環日食（撮影：尾久土正己氏）

細い、細い、細い太陽が繋がった一瞬。月のでこぼこがつくりだすベイリービーズは、本当に神様がくれたタカラモノのようでした。継続時間は約16秒と大変短いものでしたが、感動の16秒でした。

教訓④スペイン語で買い物をするのは難しい。（差し入れ用のタオルやジュースを買うのも一苦労）

2.3 皆既日食（エジプト）

2006年3月29日、アフリカ～西アジアにかけて皆既日食が起きました。3度目の正直で「今度こそ皆既日食を見たい」と思った私は、エジプトへ行くことにしました。しかし、当時の職場が指定管理者制度で4月1日から運営が民間に委託されるという年度末でしたので、なんとか3月31日には帰国したいと旅行会社の方に無理をいい、駆け足のエジプトとなりました。ちなみにエジプトと思いついたとき、「赤道は？」とまたまた期待しましたが、首都カイロは北緯30°付近で想像よりずいぶん北に位置する国でした。（そんな想像は私だけ？）

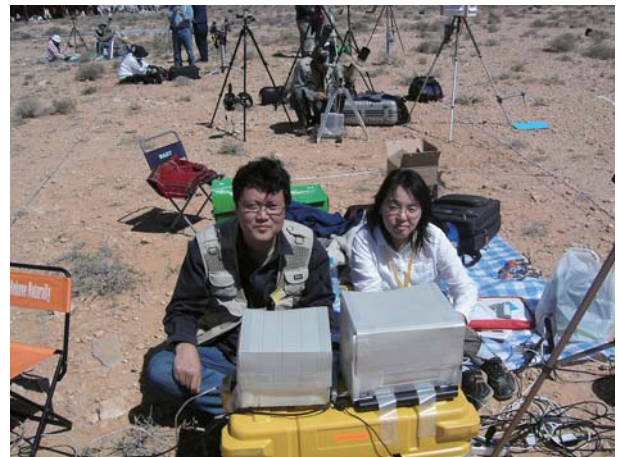


図9 日食中継機材の前で（右が筆者）

（中継用にビデオカメラと全天撮影カメラ、個人用に太陽撮影のカメラと風景撮影のカメラを準備。2台のパソコン（日よけカバー付

き)でビデオカメラの映像送信と全天撮影カメラのコントロールをします。)

観測場所はリビアとの国境近くの砂漠で、前泊した観測地のテント村では世界中から集まった日食ファンの熱気に圧倒されました。

日食当日の朝は砂漠一面霧につつまれ機材も出せない状態でしたが、やがて太陽が昇るにつれ真っ青な空が広がりました。今回は和歌山大学及び LIVE! UNIVERSE の中継グループの一員として参加しましたが、太陽の拡大画像と全天画像の中継のうち、私は全天撮影カメラを担当し、空とパソコンの画面を交互に見ながら、自分のコンパクトデジタルカメラで周囲の様子を撮影することにしました。以下はそのときのブログからの引用です。

空がはっきりと暗くなりました。

25日に西方最大離角を迎えた金星が、思ったより太陽から遠く明るく輝いています。風が冷たく感じられ、ホームセンターで200円くらいで買って持っていった温度計を見ると4~5度くらいさがっているようです。



図9 皆既日食

『現地時間 12:38』皆既食の始まりです。あたりは暗くなり、360度見渡す限り夕焼けのようです。沸きおこる歓声の中で、私は一人だんだんと静かになっていく自分を感じま

した。テニアンでの金環日食、パナマでのハイブリッド日食。これまでの驚き、はしゃぎ、感動していたのと別人のような感覚。「なんだろう、これは」「これが皆既日食なのか」「いや、私は知っていたような気がする。遠い昔から」

あっという間の4分間は過ぎ、また太陽が姿を現しました。一気に明るさが戻りました。私の初皆既日食体験でした。

急激に暗くなる空に体が震えたのを覚えています。黒い太陽のあまりの小ささに驚いたのを覚えています。来てよかったと心から思いました。

教訓⑤百聞は一見にしかず。(昔の人が皆既日食を恐れた理由がわかった。)

教訓⑥海外での食事は最後まで気を抜かない。

4. おわりに

A型らしく(?)一步一步着実に皆既日食に近づいた筆者の体験は参考になりましたでしょうか。一度見るとまた見たくなくなってしまいましたが、残念ながら今夏は日食中継受信側スタッフとして留守番の予定です。現地へ出かける方、地元で観察の方、中継で楽しむ方、それぞれの7月22日を楽しみましょう!

文献など

[1] LIVE! UNIVERSE

<http://www.live-universe.org/>

[2] 直径20mの空の下で・・・

http://blog.goo.ne.jp/kanro_goo